海外獣医大学の卒業生の方に Interview！①

久保山　芳嗣 先生

（2020 年　フィリピン・University of the Philippines Los Baños　御卒業）

お忙しい中インタビューに答えてくださりました。ありがとうございました。

◆まずは久保山先生のご経歴について教えてください！

出身は福岡県久留米市です。地元で高校まで進学し卒業した後、日本の獣医学部を受験しましたが落ちてしまい、九州の大学に進学しました。ここで 2 年間学んだあと、大学の制度を利用してフィリピン大学ロスバニョス校の 3 年生に編入しました。ここで合計 7 年間フィリピン大学の学生と一緒に獣医学生として学び、今年の 7 月に卒業しました。今は日本の獣医師国家試験を受けるために必要な農林水産省の審査を受けつつ、帰国後の自主隔離中です。

◆どうしてフィリピンで獣医師を目指そうと思われたのでしょうか？

小さいころからエキゾチックアニマルが好きでリクガメ、ヘビ、イグアナなどをペットとして飼っていたのですが、エキゾチックアニマルを診てくれる獣医師がとても少なく、それならば自分がエキゾチックアニマルの病気を治せる獣医師になろうと決意しました。

日本の獣医学部に落ちた時には浪人なども考えましたが、高校 3 年生の夏に志望校を調べていた際にこのフィリピン大学への編入制度を知っていたため、留学したいという思いもあったため、この制度を使って進学しようと決めて大学を受験しました。

◆フィリピンには浪人や再入学などのシステムはあるのでしょうか？

現地の高校生は受験生の時に基本的に浪人という選択肢はないですね。もし獣医学部を目指していたけど合格することができなかったという人は、いったん獣医以外の学部に進学して、転学部で獣医学部を目指すか、いったん卒業してから目指すというのが一般的ですね。

◆留学前はどれくらいの英語力だったのでしょうか？また、留学を通じてどれくらい英語力は伸びましたか？

英語は好きでしたがすごく得意というわけではなく、センター試験でも偏差値 60 に達しないくらいでしたね。九州の大学に入学してから、英語をすごく勉強したので少しは喋れるような状態で留学することができました。点数は覚えていないのですが、留学前には TOEFL の受験が必要で、ある一定の基準をクリアした人だけが留学できるシステムでした。フィリピン大学への入学は 8 月からだったので、3 月に大学 2 年生が終わった後留学が始まるまでの間、大学が実施する英語のトレーニングの講座を受講しました。

◆フィリピン大学の学生の方の性別や国籍の比率はどのような感じでしたか？

フィリピン大学の 1 学年は 100 人程度でしたね。全体の 70～80％程度が女性でした。フィリピン人以外の学生は 5 ％くらいで、外国人留学生のうち 80％くらいが日本人学生でし

たね。他には韓国人やアフリカ人、インド人の学生がいました。

◆フィリピン大学で学ばれたカリキュラムはどのようなカリキュラムですか？

一般教養科目は統計学やフィリピンの歴史、体育といった科目をいくつか受講しましたが、ほとんどの科目はフィリピン大学では免除されました。日本にいたころはあまり獣医学に関係する科目はなくて、一般的な化学や生物学を学んでいました。

3 年生では解剖学、生理学、組織学といった基礎的な科目をやり、4 年次では病理学や薬理学、繁殖生理学を前期にやり、後期からは臨床系の基礎となる科目を学び始めました。5 年生は手術などの実習が多く、5 年生の後期から 6 年生の前期は実習と並行して、公衆衛生や法規、倫理などの科目を履修しました。6 年生の後期では学外でインターンシップをしたり卒業研究を行ったりしました。

フィリピン大学では 1 つの科目に座学と実習が両方含まれていて同じ時期に並行して進めていく感じでした。座学の試験に受かっても実習の試験に受からないと座学も含めて不合格となる制度だったので大変でした。採血や去勢などの実習に用いる動物は、多くは大学で飼っているわけではなくて、友人の学生が飼っている犬を借りたりして、学生自身が準備しなければいけないというシステムだったので、おとなしい犬は人気だったりしましたね。牛や馬は大学の提携している農場から提供されたりしていましたが、解剖に用いる羊や鶏は学生自身が専門業者で注文したり、街の市場で購入してくるというような形でした。羊は 1 頭 8000 円くらいですね。実習で使った動物はそのあと自分で飼う人もいましたし、調理して食べる人もいましたね。実習で使用する採血の針なんかも自分で薬局へ行って買ってくるといった感じでした。

フィリピン大学の試験や進級は非常に厳しかったです。非常に留年する人が多くて、現地のフィリピン人学生でも修業年限の 6 年間で卒業できる人は半分弱だったので、日本人学生はさらに大変でしたね。2 年や 3 年留年する人もかなり多い印象でした。他にも単位を落としすぎると次の学期にとれる単位を制限されたり、放校されたりと、相当な割合の人が途中で大学を辞めてしまったり他の大学の獣医学部へ移って行ったりしましたね。

◆クラブやサークル活動、アルバイトはありましたか？

サークル活動はあまり活発ではなくて、バスケやサッカーなどのスポーツ系のサークルはほとんどありませんでした。勉強会というか学術系みたいな感じのサークルはいくつかありましたね。他に外国人留学生の集まりのようなものがあり、それには参加していました。

アルバイトできる時間はほとんどありませんでした。低学年のころは翻訳のアルバイトをしたり、長期休暇中に日本に帰ってアルバイトをする学生もいたりしましたが、実習が忙しくなってくるとバイトを続けながら大学の勉強を続けている人は 1 人もいな

かったですね。

（前半は以上になります。ぜひ後半もご覧ください！）